

えにつながる道を見失っていないでしょうか？

お朝事でお配りする、お仏飯は、全部で6つになりませんが、6人以上お参りされたときは、常連の方がゆずられます。「どうぞ、どうぞ」とゆずり合う姿にいつも感動します。本当にすばらしい姿だと思います。

ご家庭でも、頂きものをお仏壇にお供えしてから、みんなで頂くという習慣がありませんか？善了寺のデイサービスの仏壇にはいつもお供えが上がっています。通われているみなさんの習慣のなかにあるんですね。時代を越えて本当に尊い習慣だとも思います。忘れていたり、気付かなかったときは、是非、今日からまた実践してみてください。そして、ともに食事することを丁寧に味わってみたいとおもいます。お供えをいただく習慣の中で、み仏とともに頂くお食事は、一人で食べる事があつたとしても決して「孤食」ではありません。お念仏を申し、阿弥陀如来様と共に親鸞様と共に、そして、往生された多くの先人と共に、いのちを頂く尊いご縁を大切にしていきたいでしょう。

### 住職雑感

◎一月もあつという間に過ぎ去ろうとしています。みなさん体調はいかがでしょう？

◎風邪など十分お身体を御自愛ください。あたり前のように暮らしていることが、本当に尊いことだと思わずにはおられません。報道で流れる世界各国の状況をみても、本当に一日一日ですね。お互いに仏縁を大切にいたしましょう。

# 令和2年2月・3月の行事予定

うたの会 2/8 13時30分

定例法話会 2/8 14時

浄土真宗本願寺派 教覚寺 住職

南荘 宏 師

※いつも築地本願寺の仏教婦人会総会などで仏教讃歌のご指導をしていただく先生です。みなさんと一緒に楽しく仏教讃歌を歌い、お話をきかせていただきますよう。

親鸞聖人月命日

浅井成海先生月命日法要

2/16 14時

引き続き『今を生かされて』輪読会

そうだお坊さんとお茶しよう

2/22 15時

定例法話会・東日本大震災追悼法要

御講師 高願寺住職 宮本義宣 師

3/8 14時

親鸞聖人・浅井成海先生月命日

3/16 14時

引き続き『今を生かされて』輪読会

春季彼岸会期間 3/17 ~ 23

期間中毎日 10時・14時 法要

そうだお坊さんとお茶しよう

3/28 15時

善了寺境内地に新しい墓地区画が完成いたしました。

お問い合わせはお寺まで。

発行責任 浄土真宗本願寺派善了寺 住職成田智信

メール: yan0348@gmail.com ホームページ <http://www.zenryouji.jp/>

住所: 横浜市戸塚区矢部町125 電話: 045-881-0348 FAX: 045-881-0379

# 善了寺ニュース 2月号

## 今月の主なメニュー

- 1, 善了寺日記
- 2, 行事案内
- 3, お知らせ
- 4, 還る家ともに日誌

発行責任：浄土真宗本願寺派  
善了寺住職 成田智信  
第283号  
発行日：令和2年2月1日

## 善了寺日記

寒暖の差が激しい今日この頃みなさんいかがお過ごしでしょうか。

この年末年始、『ゴリラからの警告 「人間社会、ここがおかしい」』というゴリラ研究の世界的権威である山極寿一先生の本に出会いました。刺激をうけたいくつかのトピックから考えてみたいと思います。住職なので、つい本を読んでもお寺の暮しに結び付けて考えてしまいます。本の読み方のクセなのかもしれない。強引に結びつけているところもあるかも知れませんが、御気軽に付き合ってください。

山際先生のご専門は、霊長類学で人間に近い動物の生き方から人間の進化や文化を考える学問です。

「人間以外のサルや類人猿（ゴリラやチンパンジー）を野生の生息地で追っている」と、「生きる事は食べることだ」と思い知らされる。（中略）いつ、どこで、何を、どのように食べるかが、一日の大きな関心事である。群れをつくって暮らすサルたちにとっては、それに加えて「だれと食べるか」が重要となる。いっしょに食べる相手によって、自分がどのように、どのくらい食物に手を出せるかが変わるし、相手を選ばないと、食べたいものも食べられなくなってしまうからだ」（十八頁）

と指摘されています。強いサルは食物を独占し、他のサルに分けることはない。サルの社会では食物を囲んで仲良く食事をする光景は決し

で見られないそうです。弱いサルが広くて分散して、個食しましょう。ということですが。

この姿を、人間は素晴らしいと上から目線で考えるのではなく、同じ尊いいのちの営みとして受け止め学ぶことが大切だと思います。

なぜ、人間はわざわざ時間をかけて食事をするのでしょうか？

「それは、相手とじっくりと向かい合い、気持ちを通じ合せながら信頼関係を築くためであると思はる。相手と競合しそうな食物をあえて間に置き、けんかをせずに平和な関係であることを前提にして、食べる行為を同調させることが大切なのだ。同じ物をいっしょに食べることによって、ともに生きようとする実感がわいてくる。それが信頼する気持ち、共に歩もうとする気持ちを生み出すのだと思う。」（十七頁）

「ご食事の時のお食事やお仏壇からのおさがりを頂くお食事の場に生まれる、信頼や、共に歩もうとする心は、生きていく者だけではなく、亡くなった方と共にこの人生を歩んで行こうという暮しをつくる力になるのだと思います。善了寺のお朝事（朝のお勤め）では、最後に、朝一番でお供えした、お仏飯をお参りされた方にお配りしています。善了寺ならではの特色です。仏さまにお供えしたお供物などを頂くことは、よく「おさがり」と言い慣わしていました。敬いの心を表す「お」が付いていますね。単なる栄養補給ではなく、頂きたいのちである実感を伝え、仏様とわたしのいのちがバラバラではなくつながっていることを味う大切な言葉でした。こういった場面、場面の力をていねいに読みといていくことは、その根元をささえる、お念仏のみ教えに必ずつながっています。バラバラに捉えることによって、み教